

アグリワークポイント AGRIWORKPOINT

米

田植え前の準備

農業経営支援課 山村 哲平



苗の準備

《育苗中のかん水》

緑化期以降は根の呼吸も活発になります。この時期にかん水が多いと、床土が過湿になり、根の呼吸が妨げられマット形状が不良になります。育苗初期は午前中に1回、充分に行ってください。苗が大きくなった後期には1日1〜2回を目安に行います。

(注意) 夕刻のかん水は温度低下や夜間の呼吸を妨げるので避けましょう。また、風で育苗箱の隅が乾くので、板等で風よけを作るか、乾いた部分だけをかん水することがポイントです。

本田の準備

基肥は入水前に施用し、混和しておくことが重要です。代かきは、田植え2〜3日前を標準としますが、砂質土では1日前、重粘土では3〜4日前と土質により考慮します。

《防除について》

田植え前に箱施用剤を散布することによって、後の防除が省力化できます。必ず行いましょう。

【ワンカ対策】

発生数が増えてからの防除では増殖を抑える事は難しいため、効果が長く続く箱施用剤「フルスロツトル箱粒剤」を使用し、発生初期から徹底的に抑え込みましょう。

【ジャンボタニシ対策】

田植えから3週間頃までが食害に遭いやすいので、田植え直後から防除を行いましょう。防除は水中の濁りが澄んでから「スクミノン」を10a当り1〜4kg使用してください(使用回数2回まで)。散布後7日間は落水やかけ流しをしないでください。水口周辺や深水になる場所は特に被害が多いため多めに散布しましょう。